

#06_甘えたっていいんですカノジョですから～望海の授乳手コキ～

◆…望海

◆「失礼します」

◆「体調はどうでしょうか？　少しでも良くなっていると良いのですが…」

◆「まだまだ時間はかかりそうですか？　でも、気を落とさないでくださいね」

◆「その…私が、ついていますから」

◆「ふう…こういうことを面と向かって言うのは、やはり苦手です。
どうしても、恥ずかしいと言いますか…」

◆「でも…本心ですから。ちゃんと伝え…ます。

何があっても、あなたは私が支えますからね？　彼女として…」

◆「ふう…」

◆「今日は寧音さんが来ていないみたいですね」

◆「それくらい、わかりますよ。

彼女が来たなら、必ず花瓶をきれいにしていきますから」

◆「そしてこの時間になったら…彼女は来ない」

◆「ふっ…好都合ですね」

◆「だって、こういう日なら、2人きりでしかできないことも、楽しめますから」

◆「どうですか？

寧音さんがいたらできないようなこと…やってみませんか？」

◆「私だって…彼女のように、あなたを甘えさせることくらいできるんですから」

◆「いえ…というよりも、甘えてほしいと言いますか…」

◆「だって、私はあなたの彼女なんですから」

◆「ふう…ふふふ」

◆「では、失礼しますね」

◆「こうして…頭を上げてもらって…膝枕、です」

- ◆「ふふ、ベッドの上で膝枕をするというのも、変な話ですが…
ここから…服を脱いで…」
- ◆「胸を出すというのは…少し恥ずかしいですね。しかも…病室で…」
- ◆「ただ、その…ずっと入院を続けているあなたに、
私ができることを考えて、出した結論がこれなのです」
- ◆「入院中は性処理も満足にできません。
なので、性的なことをするのが良いとは思ったのですが…
あなたにとって、何が良いかと考えた結果…」
- ◆「特殊なプレイというか、なんというか…
授乳手コキプレイなんてどうかなと思ったのです」
- ◆「そうです。授乳手コキプレイです」
- ◆「1人きりで過ごす入院生活、母性を求めているのでは？　と思ひまして」
- ◆「…ずれて、いますかね？」
- ◆「でも、ずれていてもいいです。
今日は私、あなたを精一杯甘やかしたいと思っているので」
- ◆「まあ、私も体が疼くと言いますか…」
- ◆「なので、これは私の自分勝手…ですので、やらせていただきます。ふふふ」
- ◆「あなたはただ、身を任せつつ…私の胸を、好きにしてください」
- ◆「ええ…なんでも、あなたのお望み通りに…揉んでも、舐めても、
吸っても…な一んでも、していいんですから」
- ◆「では、失礼して…」
- ◆「ふふっ…期待してくださっているのでしょうか？
もうパンパンに膨れ上がっているじゃないですか？」
- ◆「これは、やる気がみなぎってくると言うもの…では、いきますよ」
- ◆「んふっ…シコシコ…シコシコ…シコシコ…どうですか？
強すぎないですか？」

- ◆「その…きっとこれくらいの強さが良いのかなと思って…」
- ◆「ほら、私のおっぱい、好きにして良いんですよ？」
- ◆「期待…しているんですから」

- ◆「あなたの口で、私の乳首を、たくさん吸って、ねぶってください」
- ◆「ほらほら、どうぞ！　ぱく～ってしちゃってください。はい、あ～ん♡」

- ◆「あっ！　んんっ…ふうっ…♡　胸を吸われるのって、
こんな感じなんですねえっ♡
ん…気持ちいい…♡　そう…ですっ、いい調子です」

- ◆「なんだか、幸せな気持ちがどんどん湧いてきて…はあっ♡
ふう…ふう…んっ…んんっ…ふうっ！」
- ◆「だ、だめですね…これで私が手を止めてしまっては…」
- ◆「いき…ますっ…んっ、ふう…♡」

- ◆「シコシコ…シュコシュコ…んんっ！
クチュクチュ…んっ、ふうっ…シュシュシュ…はあ…はあ…」
- ◆「はあ…ふう…ふう…んあっ…ふっ…んっ…くっ…んふっふうふう…
んっ…ふあっ…んんっ…んっ…んんっ…んんっそこ…気持ちいい…
んっ…ふあっ…んふうっ…」

- ◆「ふううっ…わた…しも、負けませんよお…っ！
んっ、ふあっ…ふう、ふうっ…」
- ◆「ふふっ、大きな胸が顔に乗っかる感触も、
気に入っていただけたようですね♡
あなたの気持ち、おちんちんからも伝わってきますよ♡」

- ◆「比較したことは無いのですが…私の胸…
きっと、男性には喜んでもらえると思っていたので…」
- ◆「ふふっ、その初めての相手があなたで、とても嬉しいです」

- ◆「だって…こういう特殊なプレイなんて…
好きな人にしかできませんから…んんっ…ふうっ！」
- ◆「ふふふ…たくさん吸ってくれて…気持ちいいです♡」

- ◆「でもこうしていると…なんだか本当に赤ん坊をあやしているみたい」
- ◆「ぼくちゃん♡ おっぱいチュウチュウできて気持ちいいですね～
なんて…ふふっ！」

- ◆「…気のせいでしょうか？ 少しおちんちんの反応が良くなったような？」
- ◆「こういうのも、好きなのでしょうか？」
- ◆「意外に、可愛らしいところもあるんですね♡
そういうところも、大好きです♡ ふふっ…！」

- ◆「今は私を、あなたのママだと思って…たくさん甘えてくださいね…♡」
- ◆「おっぱいをたくさん吸って…飲んで…もっとも～っと、
元気になってください♡」

- ◆「多少乱暴に吸ってもいいですから…
ぼくちゃんが、幸せになるように…たくさん気持ちよくなるように！
むらむらしたおちんちんから、たくさんドピュドピュ出せるように～！」

- ◆「…あんっ♡ んんっ！ くうう…ふうっ、ふうっ…あうっ、ふうん…！
ふふっ！ おっぱい吸うの上手で…ママもとっても気持ちいいです♡」

- ◆「ぼくちゃん…ぼくちゃん…ぼくちゃん♡
ママも頑張って、おちんちんシコシコしてあげますからね～！」

- ◆「先走りのお汁を塗りたくって…ほらっ、しこしこ…ぐちゅぐちゅ…
にゆるにゆる…ぐちょぐちょ…じゅじゅじゅ…♡」

- ◆「んふっ…んん～♡ エッチな音が、病室中に響いちゃう…んっ、あんっ♡」
- ◆「はあ…はあ…んっ、んふうっ♡ 切なそうな顔…♡
ふふ…そろそろ、おちんちんからびゆるびゆるしたく
なっちゃいましたかね？」

- ◆「いいですよ。たくさんどぴゅどぴゅ、濃厚精子を出して…♡
ママがお手々がしっかり受け止めますから♡
立派なおちんちんから、たくさんお射精するところ…
見せてくださいな♡」

- ◆「ほら、ほら…！ おっぱい吸いながら、本能の赴くままに～
タマタマの中でグツグツ溜めたのを全部出しちゃえ…出しちゃえっ…♡」
- ◆「おちんちんをちゅこちゅこされて…
最高に気持ちのいい射精をしちゃいましょう♡」

- ◆「あは♡ 出る？ 出る？ 出そうですか？ いいですよお？
ママのお手々も受け入れ準備 OK です！」

- ◆「ほらほらほ～ら♡ 出そう、出そう、出そう、出そう♡」
- ◆「あ♡ 来た来た来た来た♡ せえ～のっ！」

- ◆「びゅるびゅるびゅる～っ♡ どぷどぷ、どぴゅりゅりゅりゅ～♡」
- ◆「ぶびゅぶびゅ…びゅりゅりゅりゅ～！ びゅりゅ～！」

- ◆「すごい…すごいです…お射精…全然止まる気配がありません♡」
- ◆「たくさん溜め込んでいたせいなのでしょうかね？
手の中があなたの精子で一杯にされちゃいました。はあ…」

- ◆「あなたの濃厚な匂い、嗅いでいるだけで…クラクラして…
体が疼いちゃいますねっ…♡」
- ◆「では、今日もあなたのお精子…いただきます♡」

- ◆「んぐっ…ぐっ…ぐっ…んふっ…ふっ…ふう…んふっ…ふう…♡」
- ◆「んんっ…♡ はあ…はあ…ふふっ…ごちそうさまでした。
とっても美味しかったです♡」

- ◆「私からも、何かお返しができる方がいいんですが…
おっぱいはまだ出せませんし…」
- ◆「いつか、あなたとの子どもができれば…そういうこともできる…
とも思うんですが…」

- ◆「なんて、少しだけ妄想を語ってしまいました。ふふふ…」
- ◆「あら…目をとろんとさせて…
たくさん射精してしまって眠くなってしまうましたか？」
- ◆「いいんですよ。お気遣いなく」
- ◆「ゆっくり休んでください」